平成 28 年 7 月 16 日
北関東フォーラム
於：シムックス

中斎塾　北関東フォーラム
平成 28 年度第 7 回

若さの秘訣

猪瀬理事長が挨拶の中で、東京フォーラムの会員さんを紹介しておられました。80 歳を超えておられるけれども、とても若々しいという話でした。元商社マンで世界中を飛び回っておられた方で、中斎塾フォーラムは聞いた事のない話が聞けるので楽しいと言っておられるそうです。

昨日、群馬経済同友会主催の講演会で福田康夫元総理が話をされました。福田康夫さんも 80 歳を超しておられますが、背筋もピント伸びて、頭もよく回っておられました。

講演会の後に会員のお一人と話を致しました。その方は 90 歳目前で、現在は会社の相談役になっておられますが、「やりたい事が沢山あって、知りたい事も沢山あるから、どうしてもこういう会合に来てしまうのだ」と言っておられました。真向法にも参加されていて、身体も柔軟で、とても若々しくシャンとしておられます。

中斎塾フォーラムの顧問の先生方も 80 代で、皆さんお元氣です。先生方をみると、将来構想をきちんと持っておられます。やはり精神的に充実しておられ、これから何をしたいという前向きな目標があると、顔つきまで若々しくいられるようです。

福田康夫元総理の話は、「日本の進む道」というテーマでしたが、以前申しました中曽根元総理の事務所で伺った話と内容がほぼ一致していたので驚きました。

今は人口減少の時代に入っていて、東京・埼玉・神奈川・千葉は人口が集中しているけれども、他は全部減っている。＜群馬に活力を！＞ということで話をされました。その中で印象に残ったものは、先端技術を大いに活かしていけば、地方にこそ日本の未来があるという言い方をしておられました。つまり、地方には明日の日本を切り開く未来の種が沢山埋まっている、と私は理解しました。

中曽根康弘先生の事務所で伺った話も、日本は先端技術が他の国に比べて優れているので、それを活かしていけばまだまだ発展していくチャンスがある、と中曽根先生も言っておられるそうなので、奇しくも元総理御二人の考えが同じだと感じました。政治家は年をとっても元氣がいい人が多いですが、人のエネルギーを貰っているのだと思います。

寸言の効用

本日のテーマは、寸言の効用です。御紹介する本は、渡邉五郎三郎先生が書かれた『西郷南洲手抄言志録を読む』（致知出版社）です。西郷南洲が『言志四録』から選び出した言葉が沢山書かれていて、その一つ一つに渡邉五郎三郎先生が解説をしておられます。

サッと開くと、**「心を奮い立たせる」**として、

憤（ふん）の一字は、是（こ）れ神学の機関なり。舜（しゅん）何人（なんぴと）ぞや、予（われ）何人ぞやとは、方（まさ）に是れ憤なり。

という言志録の一文があります。

憤とは公憤です。前にも申し上げましたが、渋澤栄一も明治維新の志士たちも、論語の「朝に道を聞かば、夕べに死すとも可なり」という言葉を金科玉条にして、自らを奮い立たせて道を突き進んだわけです。

皆さんも何か一つ、自分の役に立つと思う言葉を持つことをお勧めします。それが咄嗟の時、自分自身の判断基準になります。

ものを考える尺度

今年に入って半年過ぎましたから、この半年間でお答えください。

○　半年間、比較的良い日が多かった方

ものごとを考えるには、尺度があります。1 日単位で考える。1 ヶ月で考える。1 年で考える等々。木内信胤先生はお父様が亡くなられてから 50 年経って、半世紀という尺度が生まれたと言われました。半世紀という尺度があると、1 世紀はその倍というふうに、世紀が実感で分かるようになったとも言っておられました。

ですから自分自身の尺度を 1 日、1 ヶ月、1 年…10 年と広げてみるとよろしいでしょう。50 年という尺度があれば素晴らしいですね。そうすると歴史的にものを見る見方が自然と生まれてくると思います。國分さんは長寿企業について研究をされておられますが、半世紀という尺度で世の中をもう一度見ると、1 世紀が見えるかもしれません。1 世紀が見えると、長寿企業についての話が一段と深みを増すと思います。

○　半年間、嘘を沢山ついてしまった方・・・これは、さすがにいません。

嘘つくことが本当に少なかったという方・・・若干手が挙がりました。

一度も嘘をつかなかった方・・・市川さんお一人手が挙がりました。

自分の言動については、自分自身で評価する場合と、他人の目で自分を評価する場合があります。他人の目で評価する時には、判断の三原則の「大局」の見方で考える必要があ

るでしょう。例えば、手を挙げられた市川さんは市会議員として市政に携わっておられます。ご本人は嘘をつかないと思って、実際つかないのでしょう。しかし周りの人から見た時に、言行が一致しているかどうか、有権者（市民）の目で見る必要があります。有権者に、自分はどう映っているか。更に、メディアの目で見て、自分はどう映っているか。評論家の目で見てどうか・・・と考えてみる必要があります。

嘘という視点で見ると、私は新聞に書いてあるものは視点を変えれば嘘だらけだと思っています。ですから新聞は基本的にヒントが詰まっていると思って下さいと常に申し上げています。最近の新聞は、きちんと足を運んで調べている記事が非常に少ない。共同通信や時事通信から貰ったもの、或いは記者クラブで発表になったものを、何も調べないで載せているようではどうしようもありません。今や週刊誌の方が、より信憑性が高く考えさせられる記事が掲載されているように感じます。

○　半年間、有難うと言い、有難うと言われることが多かった方

有難うと言うのは簡単ですが、有難うと言われるのは結構大変です。意識して人さまに何かして差し上げるよう心掛けるとよろしいでしょう。

○　半年間、健康法を毎日実践している方

結構、手が挙がりました。素晴らしいですね。

○　昨晩寝る時に、明日以降を過去形でイメージして眠れた方

明日以降を考えて、あれをやりたい、これをやりたいとワクワクする。そのうち、出来て良かった！　と思ってスッと眠れるようになります。

○　半年間、自分磨きをかなりやった方

自分磨きをしておられる方は色艶が良いですね。政治家の顔色がどす黒くなって来たら、心に何かやましいものを持っていると思って下さい。

テーマを振り返る

では、後半のお話を致します。

ただ今、少しの時間黙っておりました。何分くらい黙っていれば私語が終わるかなと思い、時計を見ながら待っていました。中村天風先生の師匠である頭山満という先生が大きな会場で講演をされた時に、壇上にあがってずっと黙っていた。すると、かなり長時間何も話さないでいた為、会場が少しざわついて来ました。そこで開口一番、頭山先生は「私は話が不得手なので、天風という弟子に話をさせる。私の話だと思って聞くように」と言って壇上から下りてしまった。急に振られた中村天風先生はすぐに登壇して話をされた、というエピソードが頭に浮かびました。

半年経ちましたので、今年１月からのテーマをさらっと振り返っておきましょう。

今年は、干支から見ると「きな臭い年」、一触即発で何が起きるか分からない年だと出だしに申しました。今年一年間、きな臭いものは更にきな臭さを増してずっと続きます。どこかでちょっと間違えると戦争状態になる、という現状だと思います。戦争状態というと皆さんの頭の中にあるのは軍隊同士が武器を持って戦うようなイメージでしょうが、今年はまるで戦争の概念が変わったと思っています。と申しますのは、テロが起きました。

テロは、煎じ詰めると日本発です。今、無差別の殺傷行為をしているテロとは、日本で見ると古くは神風特攻隊です。死ぬことを厭わずに飛行機で敵の軍艦に体当たりをした。それによって特攻の感覚が世界に広がったわけです。その次は、オウム真理教の地下鉄サリン事件です。これも無差別意図的に市民に対する攻撃をしました。これが一氣に世界に広がって、世界はそのための対策で躍起になっています。当の日本は、どうも忘れて来ています。ということで、日本初のテロ行為が世界に拡散して、ブーメランのように日本に戻って来る。それがいつ戻ってくるか・・・というきな臭さが増していると思っています。

１月はそういうものを頭に置いて、総合的直観力が大事だと申しました。今の世の中は分析が中心ですが、時々それらをまとめて総合でものを見なければいけません。色々な情報を集めて分析し、ひっくるめて全体を眺める力が総合的判断力です。その中で、感性が研ぎ澄まされてくると、直観力になります。細かい部分を瞬時に判断するのは直観力です。

もう一度申しますと総合的直観力とは、分析した上で総合的に判断する。尚且つそれに感性を呼び覚まして経験を積んでゆくと、直観力が働くわけです。総合的直観力を自分自身に置き換えて考えればよいと存じます。総合的直観力は、自分の身近なことでも会社のことでも国全体のことでも、全部に当てはまります。

２月はアメリカの経済について危機の本質というテーマでお話しました。木内信胤先生は平成 4 年に「アメリカは大変な勢いで転落してるんです。しかし、それはまったく新聞に載らない。載らないだけで、本当はどんどん悪くなっています」と言われました。それは、総合的直観力でアメリカは駄目だと判断されたわけです。今、アメリカの国力がどんどん衰えているのは御承知の通りです。

３月は、その木内信胤先生のことをもっと理解して戴きたいと思って、テーマに取り上げました。木内信胤先生の人生観が変わられた転換点は 2 つありました。一つ目はお父様が亡くなられて、それまでは学ぶ側だけだったのが、自分の意志をもって行動するようにな

った。もう一つは、ハイエク先生という人生の師匠に出会ったこと。ハイエク先生に教わってものが見えるようになったと言っておられます。ハイエク先生は経済学では世界的権威者で、ノーベル賞を受賞しています。評論家の渡部昇一さんは、ハイエク先生の通訳をして歩いたおかげで自分は学者になったと書いています。木内信胤先生が「今の経済学はもう駄目だ」と言いきられた事も、ハイエク先生あってのことだと思います。

したがって、師匠は要るということです。木内先生ほどの方でも師匠がいて、師匠によって眼が開いたということです。

4 月は、歴史は繰り返すというテーマで、昭和 21 年 2 月 17 日付の新聞に出た緊急金融措置令についてご紹介しました。歴史は繰り返すで、同じようなことが今後起きうる。食べ物がなくなり、べらぼうな税金をとられる時代が来ることが見えてくると申しました。

先程お話した福田元総理の話しの中で、「国民の社会保障を真剣に考えて、年金と保険の法律を通したのが自民党だから、自民党は素晴らしい」という発言がありました。しかしちょっと認識が違いますね。年金については以前から申し上げていますが、国家が詐欺をしたと思う年金制度ですし、保険もオバマケアに比べればはるかに良いでしょうが、不満はあります。いずれも戦費調達の感覚があります。

歴史は繰り返しますから、終戦直後のように、年収 200 万前後の場合は 25%の税金、どんどん上がって大金持ちには 90%の税金をかけるような、時代がくると思っています。日本の過去の歴史に当てはめれば、皆さんが生きている間に、少なくとも 1 回はあると思って下さい。財産を持っておられる方は、どうしますか？　使ってしまいますか？　ならば、世のため人のために寄附をされるとか、どうぞ有効にお使いになるとよろしいですね。

5 月は判断の三原則、6 月は判断基準について申しました。ゆっくり考える時間がある時は、本質・大局・歴史の 3 つの視点で考えるとよろしいでしょう。本質は、「なぜ？」を掘り下げる。大局は、ありとあらゆる立場に身をおいて、ものを考える。歴史は、過去に遡ってみる。過去をずっと追いかけると、似たような現象があります。一番良いのは 60 年単位で繰り返して見てゆくとよろしいでしょう。

そして瞬間的に判断をしなければいけない時は、自分が日頃言い続けている判断基準、寸言（役に立つと思う言葉）を何か一つお持ちください。何でも良いのです。ちなみに私は、「利に放（よ）りて行えば、怨多し」が判断基準になっています。頭が真っ白になった時は、これで判断します。ゆっくり時間がある時でも、「利に放りて行えば、怨多し」という視点で、本質・大局・歴史で見ます。何か一つ、論語の中からでも結構ですし書物や講

話の中からでも結構ですから、判断基準となるものをお持ちになるとよいでしょう。判断基準を持っているか持っていないかで、人生がまるで変わってきます。

論語解説

では、論語の解説を致します。憲問篇 38～39 です。

【三八】公伯寮　子路を季孫に愬う。子服景伯　以て告ぐ。曰く、夫子 固より公伯寮に惑志有り、吾が力 猶 能く諸を市朝に肆さんと。子曰く、道の将に行われんとするや、命なり。道の将に廃れんとするや、命なり。公伯寮　其れ命を如何にせんと。

この時、子路は 59 歳です。

公伯寮が子路を季孫に讒言をした。

魯の大夫の子服景伯がこれを孔子に告げて言いました。「季孫はもともと公伯寮に色々吹き込まれているから、子路はおかしいではないかと疑っている。私の権限で公伯寮を罰して、晒し首にすることは出来ますが、如何しましょうか？」

孔子が言いました。「放っておきなさい。道理が通るも通らぬも、それは天命だから、人智の及ぶことではない。ましてや公伯寮が、天命をどうすることも出来ない。心配には及びません。」

白鵬が前回の相撲で稀勢の里に勝った時、「稀勢の里にはもう横綱の力があるから、私が負けてもおかしくはない。そういう回り合わせだと思っていたけれども、私が勝ってしまった。これは稀勢の里に何かが足りないからだろう」という台詞を言いました。ということは、横綱になることは天命である。人智の及ぶものではなく、色々なものが重なって横綱になるのだから、稀勢の里はその内の何かが足りなかったと言ったのでしょう。

【三九】子曰く、賢者は世を辟く。其の次は地を辟く。其の次は色を辟く。其の次は言を辟く。

孔子が言うには、優れた人物は、世の中が乱れている時には世に出ようとしない。その次には、乱れた国から去っていく。その次には、君主が礼儀正しいか容貌態度を見て、自分の意見と合わなければ、その国を避ける。

会社を辞めるかどうかの判断をする場合に置き換えて考えるとよいでしょう。その会社

の雰囲気が悪いと感じる、ものの考え方がおかしいと思ったら辞めたら良い。会社のトップに会って、その動作態度がおかしいと感じる、更には自分と意見を戦わせて取り入れられないようであれば、他の会社に移るなり独立するが良かろう、と読み替えればよいでしょう。

右肩上がりはやめる

今の世の中、ものの考え方が皆、右肩上がりです。会社は、昨年より大きくする、利益を上げる。団体であれば会員を増やすという具合です。何かおかしいですね。際限なく発展しよう！　拡大しよう！　という考え方はおかしいと思います。ですから中斎塾フォーラムも、ある程度の会員数になったら、前年対比何％減といった右肩下がりの計画を立てて実行していく。そのかわり中味は磨かれて充実していく、そういう内容に変わっていかなければいけないと感じます。物を作って売る商売は、物を作るまでは良いけれども、作って貸せばよいと思います。そして回収して、直してまた貸すなり売るなり、リサイクルで回せばよいと思います。

これからの世の中は、人口減少社会に入って行くわけだから、全て右肩下がりになる。食べ物は自給自足で、循環型社会になっていくと思っています。歴史で見れば、どんな大きな国、どんな文明でも、てっぺんまで登り詰めたら下がる、或いは消滅する。そこからまた新しいものが生まれてくる。文明法則史学でいけば、1000 年から 2000 年単位で文明が生まれて発展し、衰退して、新たな文明が生まれ、発展し、衰退する。その繰り返しをしています。地球の環境も同じだと思っています。そういう感覚で見ていると、ずっと右肩上がりで伸びていくことなど、出来るはずがないのです。

お時間が参りました。以上で本日の講話を終了致します。